

政策 2. 教育

学び合い成長できるまちを目指します

① 現状と課題

予測困難な時代を迎え、子どもたちが多様な価値観を認め、主体性を持って自らの「解」を見つけ、実行する「生きる力」の育成が重要となっています。また、障がいの有無や国籍、性的指向等の違いにかかわらず、誰一人取り残すことのない教育の推進も求められています。

2021年(令和3年)に国の中央教育審議会が提言した「令和の日本型学校教育」では、子ども一人ひとりの成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導する「個別最適な学び」と、子ども同士や多様な他者と協働しながら、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することが大切であるとされています。一方、教職員の長時間労働は依然として解消されておらず、教員の不足等から起きる多忙化と教育の質の低下が懸念されています。

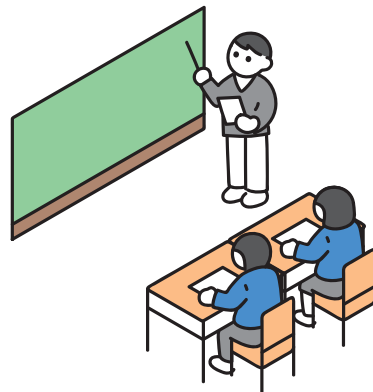
本市では、「生きる力」の礎となる「考える力」の育成を目的に「袋井型」授業づくり¹⁹を推進しており、ICT²⁰の効果的な活用や、リアルな体験と人との関わりを大切にした教育の実践をはじめ、障がいの有無等にかかわらず可能な限り同じ環境で学ぶ「共生・共育」など、心ゆたかな人づくりに向け、更なる取組の充実が必要です。

さらに、生涯にわたって学び、より豊かで充実した生活を送ることがWell-being(ウェルビーイング)²¹につながることから、地域の特色を活かした学びの機会を提供することにより、コミュニティの一員として、市民一人ひとりの地域への愛着と責任感を育み、将来にわたってまちの「にぎわい」を支える人材を育成することが重要です。

¹⁹ ①「?」型の学習課題の提示、②他者との対話・議論、③納得解(個のまとめ)を表出する場の設定による「考える力」の育成を大切にした授業づくり

²⁰ Information and Communication Technology(情報通信技術)

²¹ 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念のこと



取組と基本方針

取組 1. 未来に輝くこどもたちの育成

1. 「生きる力」の育成
2. 「確かな学力」を育む教育の推進
3. 健やかな心身を育む教育の推進
4. こどもの健全な成長を支える安全・安心な給食の提供
5. 質の高い教育環境の整備

取組 2. 教養豊かな人づくり

1. 社会全体が連携した青少年健全育成の推進
2. 市民の学び合い・地域づくりへの支援
3. 読書活動の推進と図書館機能の充実

政策指標

[]内の矢印は、それぞれ「上げていくことを目指す指標」、「維持していくことを目指す指標」、「下げていくことを目指す指標」を示す

指標名(単位)	現状値 年度	目標値 年度	最終目標値 年度
「心ゆたかでたくましい若者が育つまち」だと思う 市民の割合(%) [↗]	36.0 2025年度	43.0 2030年度	50.0 2035年度
「小・中学校などの教育環境が整っているまち」だと思う 市民の割合(%) [↗]	47.9 2025年度	52.9 2030年度	57.9 2035年度
「学びたいことを学べる機会があるまち」だと思う 市民の割合(%) [↗]	31.9 2025年度	41.0 2030年度	50.0 2035年度

政策 2. 取組 1. 未来に輝く子どもたちの育成

現状と課題

予測困難な時代を迎える中、子どもたちが、自ら課題を見つけ、解を導き出し、実行する、いわゆる「生きる力」の育成が重要となっています。各小・中学校では、その礎となる「考える力」の育成を目指し、対話や議論を経て自己の納得解を表現する「袋井型」授業づくりに取り組んでいるものの、更なる質の向上・改善が必要となっています。加えて、ICTの効果的な活用や生成AI²²の校務や学習への利用に関しては、効果を検証しながら進めていく必要があります。

また、社会に開かれた学校づくりにより、地域住民による学校への支援や児童生徒の地域課題解決に向けた意識の高まりが見られる一方で、教職員の業務の増大や職員不足、保護者の参画意識の低下等が顕著になりつつあります。

子どもの体力低下は、運動習慣の減少やスクリーンタイム²³の増加が一因と思われ、情報モラルの欠如や自傷行為など問題行動への対応とともに家庭を巻き込んだ取組が求められるほか、部活動の地域展開に向けて、地域の受け皿の充実が必要となっています。

本市の学校給食は、衛生管理の徹底、地場産物の活用、手作り給食など先進的な取組を進めている一方で、施設の老朽化対策（修繕、設備更新）が喫緊の課題となっているほか、学校給食の良さを家庭の食事等へ反映させていくため、市民への啓発を促進していく必要があります。

「袋井市教育施設等3Rプロジェクト」による学校施設の長寿命化、トイレの洋式化等に計画的に取り組んでいるものの、体育館の空調整備や遊具更新など更なる学習環境の維持・向上が急務となっており、併せて財源の確保が課題となっています。さらには、少子化の進展等に伴い、施設保有量に関する検討の必要性も生じています。

²² テキスト、画像、音声などを自律的に生成できるAI技術のこと

²³ スマートフォンやタブレット、パソコン、テレビ、ゲーム機などの表示画面を備えた電子機器の使用に費やした時間のこと

取組指標

[]内の矢印は、それぞれ「上げていくことを目指す指標」、「維持していくことを目指す指標」、「下げていくことを目指す指標」を示す

指標名(単位)	現状値 年度	目標値 年度
「将来の夢や目標を持っている」と答える児童生徒の割合 (小6・中3) (%) [↗]	74.8 2024年度	78.0 2030年度
全国学力・学習状況調査の記述式問題における「無解答」の割合 (小6・中3) (%) [↘]	小 8.8 中 21.9 2024年度	小 0.0 中 0.0 2030年度
「運動が好き」と答える児童生徒の割合(小5・中2) (%) [↗]	60.9 2024年度	65.0 2030年度
就学前家庭で「健康に留意し、親子で体を動かす取組を行っている」と答える保護者の割合 (%) [↗]	40.3 2024年度	45.0 2030年度
地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数(回/月) [→]	13.5 2024年度	14.0 2030年度
「教育環境が改善されてきている」と答える教職員の割合 (%) [↗]	39.6 2025年度	45.0 2030年度

基本方針

1. 「生きる力」の育成

学校・家庭・地域が連携し、安全・安心な学習環境や居場所を確保するなど、地域全体で子どもを育てる取組を推進します。また、子どもたちに対する「リアルな体験」と「人との関わり」を通じて、自ら考え、主体的に行動する「自立力」と、他者の考えを認めて協働し合う「社会力」を育み、自分を大切にしながら将来の目標や夢の実現に向けて挑戦する心の育成につなげます。

主な事業 心ゆたかな人づくり推進事業／世界につながるコミュニケーション推進事業／
幼小中一貫教育推進事業(再掲)／地域とともにある学校づくり推進事業

2. 「確かな学力」を育む教育の推進

就学前教育保育で培った「学びに向かう力」を基盤に、各小・中学校におけるICT等を活用した「個別最適な学び」と対話や議論を大切にした「協働的な学び」を通じて、自らの納得解を表現する「袋井型」授業づくりを実践することにより、子どもたちの「考える力」を育み、「確かな学力」の育成につなげます。

主な事業 「考える力」育成推進事業／学びの未来創造事業

3. 健やかな心身を育む教育の推進

関係機関と連携し、自分の身は自分で守る防災教育や多様性を認める人権教育、情報モラル教育を実践するほか、幼少期から、家庭と連携した体力や運動能力の向上に取り組み、子どもたちの心身の成長を支援します。また、中学校部活動の地域クラブ等への円滑な移行により、スポーツや文化芸術に親しむ環境を整備します。

主な事業 健やかな心身育成推進事業／命を守る教育推進事業／いじめ防止推進事業／
中学校部活動地域展開事業

4. こどもの健全な成長を支える安全・安心な給食の提供

「日本一みらいにつながる給食」アクションプランに基づき、安全・安心でおいしい給食の提供はもとより、関係機関と連携した食育活動のほか、保護者や市民の給食に対する理解を広めることなどにより、こどもの健全な成長を支援します。また、質の高い給食を持続するため、適切な施設管理に加え、老朽化した施設の再編整備に取り組みます。

主な事業 おいしい給食推進事業／学校給食センター整備事業

5. 質の高い教育環境の整備

安全で快適な学習環境と新しい時代の学びの実現のため、教育施設の計画的な長寿命化改修を実施するとともに、ネットワークなどICT環境の充実を図ります。また、公立幼稚園・認定こども園等の遊戯室や小・中学校体育館の空調整備など今日的な課題に取り組むほか、施設保有量の適正化に向け、施設の在り方について検討します。

主な事業 小・中学校施設維持管理・機能向上事業／ICT教育環境整備事業

関連計画等

- 袋井市教育大綱【再掲】
- 第3次袋井市教育情報化推進計画
- 「日本一みらいにつながる給食」アクションプラン
- 袋井市幼小中一貫教育基本方針【再掲】
- 袋井市教育施設等3Rプロジェクト

政策 2. 取組 2. 教養豊かな人づくり

現状と課題

少子化や核家族化、共働き世帯の増加、価値観の多様化等により、人と人とのつながりが希薄化し、地域での交流や青少年健全育成活動が減退しています。発達過程にある子どもにとっては、社会環境が人格形成に大きな影響を与えることから、子どもや若者が様々な体験や人との触れ合いを通じて、将来の夢に向かって自らチャレンジする機会を支援するほか、社会全体で有害な環境から青少年を守る取組のため、青少年健全育成活動を支える担い手の確保に取り組む必要があります。また、まちづくりに対する子どもたちの多様な視点やニーズを反映するとともに、主体的な参加を促すことで、本市への愛着を育むことを目的に、施策・取組に対する意見表明の機会や「子どもの声」を聴く場の確保が重要となっています。

デジタル化や市民のライフスタイルが多様化している中、コミュニティセンターでの社会教育事業等への参加者が減少し、固定化する傾向にあります。このため、市民が学びやすい環境や、市民生活に身近で関心が高く、課題解決に有益となる学びの機会の充実を図るとともに、学びを通じたつながりを人づくりやまちづくりにつなげる取組が必要です。

読書は、読解力や思考力、表現力に加え、想像力などを育む文化活動でありながら、若者を中心に活字離れが進んでいます。特に、デジタルに囲まれて暮らす現代の人々、とりわけ子どもたちにとって、多くの知識を獲得し、人生を豊かにするためにも、本に親しむ環境を用意することが重要です。デジタルとアナログのハイブリッドによって、小・中学校図書館と市立図書館が連携する「まちじゅう図書館」事業をより一層推進することで、いつでも、どこでも本と出会うことができる読書環境の充実に取り組んでいく必要があります。

取組指標

[]内の矢印は、それぞれ「上げていくことを目指す指標」、「維持していくことを目指す指標」、「下げていくことを目指す指標」を示す

指標名(単位)	現状値 年度	目標値 年度
青少年健全育成に係る事業への子ども・若者の参加者数(人/年) [↗]	818 2024年度	880 2030年度
社会教育事業等の「学びの場」への参加者数(人/年) [↗]	3,295 2024年度	3,900 2030年度
市立図書館の個人貸出利用者数(人/年) [↗]	152,271 2024年度	158,00 2030年度
学校図書館での個人貸出冊数(冊/年) [↗]	7.5 2024年度	19.5 2030年度

基本方針

1. 社会全体が連携した青少年健全育成の推進

青少年を犯罪や事故から守るとともに、社会の一員として活躍できるよう、自治会など地域の力を活かして、青少年健全育成のための環境整備に努めます。また、子どもや若者が様々な体験・交流を通じて成長できる機会を提供するとともに、夢や希望に向かったチャレンジを支援するほか、様々な施策等の実施にあたって、子どもの声を聴く機会を設けます。

主な事業 青少年指導者養成事業／青少年育成事業／放課後子ども教室推進事業／
子ども・若者海外留学派遣支援事業

2. 市民の学び合い・地域づくりへの支援

市民の自主的な学びが、地域課題の解決の一助になることや、自らのライフスタイルを豊かにするヒントを得る機会となるよう、社会の変化に対応し、生涯を通じて学べる環境の整備に努めます。また、市内に大学があることを最大限活用し、市民に対して、新たな知識との出会いや交流の機会を提供します。

主な事業 社会教育振興事業／大学を活かしたまちづくり事業

3. 読書活動の推進と図書館機能の充実

「まちじゅう図書館」事業を推進し、子どもたちを中心に、いつでも、どこでも、本と出会い、読書に親しむことができる環境の充実を図ります。また、図書館が「知の拠点」として幅広い世代から利用されるよう、読書活動の支援やレファレンス機能の充実を図るとともに、ボランティア等と協働してイベントやワークショップを実施します。

主な事業 まちじゅう図書館推進事業／子ども読書活動推進事業／図書館蔵書充実事業

関連計画等

- 袋井市こどもしあわせプラン(袋井市こども計画)【再掲】
- 袋井市教育大綱【再掲】
- 袋井市子ども読書活動推進計画(第4次)

